



NIPPON BEARING

3月22日付 日本経済新聞広告 解答と解説

【問題】PCR検査では、何を増やして調べている？

- ① ウイルス ② DNA ③ 細胞

【答え】 ② DNA

【解説】

新型コロナウイルス感染症の流行により、誰もが知ることになったPCR検査。

コロナと聞けばPCR、PCRと聞けばコロナ…という具合に、今やこの2つはセットで語られることが多くなっていますが、そもそもPCR検査では何を調べているのでしょうか？

PCRとは、ポリメラーゼ連鎖反応：polymerase chain reactionの頭文字を取ったもので、DNAの特定領域を増幅させる手法です。

PCR法の優れた点は、《僅かな量のDNAでも調べることが可能》《DNAの特定の部分だけを増幅できる》ことです。

検査では、採取した、鼻や喉の粘液・唾液などに含まれるウイルスのDNAを増やして、新型コロナウイルスの感染有無を調べていたのです。

このPCR法は、アメリカのキャリー B. マリスによって発明されました。

彼はこの発明により、1993年にノーベル化学賞を受賞しています。

当時、この発明は画期的で、その後の生物学・遺伝子分野の発展に大きく寄与します。

現在PCR法は、ウイルス等の感染症のみならず、様々な分野で広く活用・応用されていますが、ここまで一般的に知名度が高くなるとは、発明した本人でさえ想像できなかったかもしれません。

【企画・協力：(株)学研エデュケーショナル】